

祝!! 2000年
NK4耐優勝!!

始めは18才からレースを
し、13年目にして、や
つと「鈴鹿」で勝つてこ
が出来ました。考えてみ
れば、ここまでの道のり
は結構長かった。ただ、
辛くはなかったですね。

さて、前置きはともか
く先日行われた、二〇〇
〇年鈴鹿8耐の前哨戦で
あるS-T230、2耐とNK
4耐に出場しました。こ
のレースは8耐と同様に
二人で組んで、2時間と
4時間で鈴鹿のコースを
何週できるかというもの
です。S-T230、2耐・NK
4耐とも同じ日にあ
り、しかも、連続で行わ
れるため私にとつては6
時間耐久レースでした。

S-T230、2耐は予選でコ
ースレコードを出し絶好
調！NK4耐の予選も4
番手とまずまず。予選は
第1ライダーと第2ライ
ダーの合計タイムで競う
ので結局予選は両方とも
8位でした。そして、23
日決勝の日を迎え、ま
ず、S-T230、2耐です。
こっちは第2ライダーな
のでスタートはペアライ
ダー。スタートはまずま
ずでいたい12、3番
手。そのまま予定時間
30分を走りバトンタ
ッチ。作戦で私の走行時間
は交代時間限界の60分。

最初は元氣よく飛び出したものの、30分過ぎあたりから疲れてきてあとは氣力だけ。それでも交代す前には2番手まで追い上げバトンタッチ。その後何台か抜かれたものの、結果6位でフィニッシュ。“わーい入賞だー”と喜びつつ、次の4耐の準備をいそいそと開始。今度はスタートライダーもなくツナギを脱ぐ間もなくマシンをスタートラインまで並べにいく。そして、体力が回復する間もなく4耐のスタート！絶妙のスタートが出来、5番手に付けた。10周位まではトップ争いに参加してはたけど、ぼつぼつと雨が降ってきた。“うわっ！雨だ！”とメットの中で叫びつつペースを落としたのに、若者たちは元氣よくそのままのペースで走るものだからトップ争いから脱落。その内に雨は止み、予定の50分を走りきり第2ライダーに交代。その時点で5番手。およそ1時間半経ったあたりでトップ2台がエンジントラブルでリタイア。気が付いたら2番手になってました。チームの連中は誰もこんな上位を走るとは思っていないから、寝てたり、遊びにいたりとか好き勝手にやっていると、2番手になったのを誰も気が付いてなかった。みんなをかき集め説明すると、やつと普通のチームらしく動き出しました。ペアライダーの走行時間が終わり、私の2回目の走行。その時点でまだ2番手、トップとの差は約20秒。もともと、勝ちを狙ってた訳ではなかったのに、でにせずつ自分のペースで走ってたのだけけど、予定走行時間ラスト10分で何故かトップになっていた。知らないうちにトップを抜いたらしい。そのままペアライダーに交代。2回目の走行が終わっても結構元氣だった。その後抜き返され、私の交代時間までには差が20秒まで広がっていた。そして、残り時間50分、最後の交代。給油作業もスムーズに済み、勝ちを狙っての走行を開始しました。

2、3周走るとペースアップのサインがでた。“了解”とペースを上げ28秒台（その時間帯には回りのペースは30〜32秒台に落ちていた）にいられて“もういいだろう”と思っていたのにまだ“UP”サイン。“うそそ”だろ”と思ったけどそののまま28秒台の走行。でも、UPサインは消えないうちに、“UP、UP”ってこえつちはあっぱあっぱしてやるよ”とぶつづつメットの中で独り言をつぶやきながら走行してるとサインボードの表示が変わった。“+2秒”と。“???”とどうやらまた知らない内にトップになったらしい。

残り20分。こっちのペースは変わらないけど“+2秒”表示も変わらない。要は2位のチームがついてきているというこゝと。残り1分、あと1周。こゝまで来るとあとは氣力との勝負！各コーナーを呼びながら抜け、何とかトップでチェツカカーを受けるところがチェツカカーフラッグを受け取りウイニングラウンド。涙が止まらなかつた。とにかく嬉しかった。

た。そして、今まで自分
を支えてくれた両親、友
達、そしてチームのみな
なに対して“ありがとう
、ありがとう”と感謝
の気持ちで一杯でした。
グラウンドスタンド前に
戻つてくると、こんなに
人いたかしらと思うほど
の人達の拍手を受け、チ
ーム全員からビールの洗
礼を受け、表彰台の真ん
中へと導かれました。
レースが終わってしば
らくは“これは夢だ”と
思ってたけど、どうやら
現実のことだったみたい
です。

こんな感じで夢のよう
な3日間が過ぎました。
来年は鈴鹿8耐に出場
予定です。やつと夢が叶
いそうです。あきらめな
かったらいつかはいいこ
とがあると思います。
雑な文書でしたが読んで
いただき有難うございま
した。

(K・K)

登れる灯台

旅の好きな私は城址や終着駅を趣味的に訪ねていたが、そのうちに、岬、そこに立つ灯台に憧れた。魅せられるようになつた。云うなれば、激しい風浪に堪え、己が使命に敬愛の念を覚えたからであらう。わが国る機会を利用して、あかゆの名のある灯台は大半訪ねたが、北半島には、独り旅でもあった時、最も北の宗谷岬、最東端の網走岬、南の襟裳岬、西の積丹岬、雄飛行で廻つたら、麻雀好きの友人から、「東南西北で中なしか」とひやかされた。	の鯉。崎灯台は宮古からの陸路が大変なので、中遊覧船で間近からシッパルを切つたが、何足跡を印していないとが心残りである。 明治2年東京湾入口三浦半島の観音崎に、点光されてより、海上通の安全を図って、岬離れ島に数多くの灯台建設され、今や約三千百基に及ぶのである画「喜びも悲しみも幾さ感」の如く、厳しい責
九州最南端の佐多岬の岬の前方の小島に在り、また本州最東端の好きな行動する。買い物をする。買入れ、娘への土産を買ったためリバーウオーク(1kmも続くショッピングセンター)に出掛けだ。そこで飛び出す絵本で「赤ずきんちゃん」を買うことに決めた。しかし店員がいらないと聞いてくるから上手い買えないのだ。あせる。時間が余り残されていない。途方に暮れているとタイムング良く通訳の女性が来てくれた。助かった、よく聞いていると、絵本の主人公や場所が私の希望の名前などに変われると言うことだった。心の中で「そりゃ判	器の発達した現在では殆どが無人化され、嘗て灯台守は誠に不自由な生活に堪え、そこにマンも生じていたが、の労苦が解消されたことは、心から結構なこと思ふのであるが、ヒュらんわ」と自分自身で得する。待ち合わせ時にギリギリなんと間に合った。ポンチャートレイ湖に立ち寄つた後、ロシアナ・スーバードーを横目にニューオリンを後にした。 頃、目的地オランダ到着。またまた現地時に時計を合わせ、バス宿泊先に向かう途中、乗員からいろいろとアドバイスを受ける。たくさん気を付けることがありますが忘れてしまうほどです。食事が終わると見るとすでに午前0時今日から国際用地協会

マニズムを覚えた灯台 再訪して、取払われた 舎の敷地に味気なさを じるのは、第三者のわ ままと云うべきであろ か。	最近では、レーダー 電波標識により、自船 位置を正確に求め、然 後既知の灯台により、 路を確認するそうであ が、景勝の地に在る灯 は、世の人の行楽地で ある。現在が国で登 こができる灯台は、 の十一基であることを 人とは少ないが、私は 北より①秋田県男鹿 の入道埼灯台、②美 ひびりの歌で有名な た福島県いわき市の塩 埼灯台、③千葉県銚子 の大吠埼灯台、④千葉 房総半島白浜海岸の野 半島の観音埼灯台、⑤ 山梨県遠州灘東端の御前 灯台、⑦三重県志摩の 王埼灯台、⑧和歌山県 州最南端の潮畔灯台、	（IRWA）第46回教 セミナーに出席です。 ここで国際用地協会 （IRWA）について 少触れておきたいと思 ます。	本部はカリフォルニ 州ガーデynaに置き 、フランスとロス ンゼルスを中心に、用 職員を第1の目 として、用地協会（N t of Way Association の組織名）一九三〇年 に結成し発足しました その後全米に拡大し、 らにはカナダからも会 が参加し、その数も増 したため、「国際用地 会（IRWA: Intern
--	---	---	--

島根県出雲大社に近い御燈台⑩宮崎県日南岸の都井岬灯台、⑪沖縄県古島東南端の平安燈台。

二十余年前、能登半輪島の北方50軒の孤島倉島への連絡船は大物狙う釣り人ばかりであったが、私と北海道斜里に來た写真家の山崎猛の二人は島の灯台だけお目当てであった。こを奇縁に親交が続き、私が「日本の灯台」なる真集を出版するに当たっては拙文を寄稿し、また出版祝賀会に列すべく北海道に行くので、來れば納沙布岬を再訪し、その昔北方領土を見て浮かんだ拙歌をう一度反芻したいと念じている。

（M・K生）

「納沙布の岬の灯り
父祖の地を
返へせと叫ぶ
祈りにも似て」

「International Right of Way Association」に名称を更けて現在に至っている。会員はすべて個人約1万人、支部の数も余におよんでいる。協会の事業は、会員の研修主な目的で、年1回の会報発行、年1回の多数の研修プログラム、の提供等、用地業務の携わる人々との間における技術向上、情報交換が主なものであるそうである。当協会の特色の一つに、当協会が与える賞があります。「用地協会上級メンバー」といって当協会の研修を受け、場経験を積み、さらに

季節の移り変わりに
わけてミニコミの編集
行っていますが、速い
ので記録的な暑さも過
去り、山から紅葉前線
降りて来る時期となり
した。

先般の集中豪雨はい
れた方々には心からお
舞いを申し上げます。

又、起業者の方の中
は当日徹夜で対応され
た方もみえるので
ないででしょうか。お疲
れなかつただけで済み
ましたが、社員の中には
下浸水の被害にあつた
り、自家用車が廃車せ
るを得なかつた者もあ
り、被害の大きさを垣
見られました。

(H. K.)

物が、くた、産、出、初、陽、日、は、一、利、に、
高、し、床、よ、し、れ、は、近、た、に、元、の、か、よ、か、て、ひ、を、口